



菅波 茂

古来より政治の要諦は「民を食べさせ、民の血を流させず」にある。近代国民国家における国益とは国民を益することである。これが国家の論理である。NGOとは「命の普遍性」に関する活動を行う団体である。市民の論理とも言える。

米国のイラク攻撃に関して国家の論理と市民の論理が衝突しているのが、現在の国際社会である。国家の論理には「民の血を流させず」の大量破壊兵器除去だけでなく、「民を食べさせる」ための石油というエネルギー資源の利権が隠されている。多数の国家間

の複雑な利害関係が更に論点を見えにくくしている。インターネット等の発達による情報の公開が市民の論理を強化しているのも事実である。

日本の複数のNGOはヨルダンの首都であるアンマンに集結している。イラクとイラン北部でクルド人への支援活動をしているNGOもある。AMD Aは、イラン南部に流出するイラク人難民の救出活動を想定した布陣をし、パキスタンのクエッタに医療チームを待機させている。「いざ鎌倉」となれば、パキスタンから陸路でイランに入る。国境の地方空港から空路でテヘランに向かい、トラックで救援物資と共に南部に入る。南部の活動拠点都市であるアフワーズ

顔の見える日本

市にはAMD Aの姉妹団体の関係者が待機している。2月にはAMD Aのスタッフがイランにおける予備調査を行った。3月中旬には緊急救援事業部長率いるチームが緊迫下のイラン南部での人道援助実施準備を進める予定である。

AMD Aは01年11月よりアフガニスタン難民救援活動を続けている。パキスタン国内の難民にはクエッタを、アフガニスタン国内の難民にはカンダハルを拠点として。カルザイ大統領の政府樹立後のアフガニスタン情勢は、いまだ安定化したとは言えない。難民問題は少しも解決しておらず、支援が必要である。彼らが恐れているのは、イラク攻撃によりアフガニスタンが忘れ去られることである。忘却のあなたには支援がないのも事実である。92年のソマリアはどうだったのか。飢餓のためにおなか膨らした子供を抱いた有名な女優の映像が世界を動かし、「世界は一つ」と歌声が響き渡り、熱狂が覆った。熱が冷めた今、誰もソマリアを語らない。アフガニスタンは第2のソマリアになるのか。91年の湾岸戦争の教訓は「顔の見える日本」である。AMD Aは支部から構成される多国籍医師団で「顔の見える日本」をアピールしたい。「救える命があればどこへも行く」のがAMD Aのスローガンである。ご支援をお願いしたい。

アジア医師連絡協議会代表、題字は筆者